

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会 主催

第16回思春期医学臨床講習会 報告書

開催日時：2023年1月29日（日）9：35～16：20

開催場所：AP 名古屋

（所在地）愛知県名古屋市中村区名駅4—10—25 名駅 IMAI ビル

参加費：医師 5,000 円、非医師 3,000 円

参加者数：68 名

第16回思春期医学臨床講習会は、「明日からできる思春期診療～小児科医としてここまでは極めよう～」をテーマに、小児内分泌、月経関連、メンタルヘルス、摂食障害、HPV ワクチン接種について、各領域の専門家に講義を行っていただいた。参加された68名の受講者の内訳は67名が医師、1名が助産師であった。受講者の年代は、20～30代が11%、40代が20%、50代が37%、60代が30%、初回参加者は59%、過去に2回以上の参加経験のある方も13%に上り、日頃の診療で本領域の講習の必要性を感じておられることが分かった。

小児内分泌専門医の濱島崇先生には、「思春期の仕組みを知る：早発・遅発を見逃さないために」と題して、思春期の発来から、最近増加が指摘されている早発症や見逃してはいけない遅発症への対応について、具体的な説明のポイントも含めて解説いただいた。産婦人科医の甲村弘子先生には「『月経で困っている』と言われたら」と題して、月経関連の問題とその対応、婦人科へのつなぎ方などをお教えいただいた。児童精神科医の藤田純一先生には、「『気分が落ち込む』と言われたら」と題して、思春期に多い不安や抑うつへの対応の注意点や声かけの具体例を提示いただいた。会場からの質問に「つながっている小児科医が居ることの意義」を解説いただき、安心された参加者もおられたと推察する。小児科医の井口敏之先生には、「思春期の摂食障害の見立てと対応」と題して、摂食障害の病型を症例も交えて具体的に解説いただき、神経性やせ症に対する家族療法（FBT）をご紹介いただいた。慢性疼痛診療の第一人者である牛田享宏先生には「HPV ワクチン接種と痛みへの対応」と題して、機能的な身体症状調査の実際や HPV 接種ワクチン接種再開時の体制づくり、痛みを訴えたお子さんを診療する際の注意点などをお話いただいた。

参加者からのアンケート（回答64名、回収率94.1%）では、講演のテーマ、内容等に関してほとんどの参加者からとても興味深かったと高い評価を得た。開催場所、時期についても9割以上の方から適切であるとの回答を得た。また、約8割の方が16歳以上の診療経験を持ち、9割の方が講習会にまた参加したいと希望された。内容が役立ったという意見が多い一方で、「すぐに実践できそうか」については、「実践できる」と「どちらとも言えない」が半々で、本領域の対応の難しさも明らかになった。改善点として、講演内容とスライド資料を一致させる、空調などの指摘があり、オンライン化や認定単位を増やすことへの要望もあった（注：単位は専門医機構の更新基準により1日2単位）。今後取り上げて欲しいテーマとしては、不登校、ゲーム・ネット依存、ODやIBSなどの心身症、自殺企図、性別違和、発達障害、移行や就労の問題、薬物療法など様々な要望があがった。「まさに臨床場面で困っていることにどう対応すればよいか具体的に教えていただけた」との感想を励みに、今後もよりよい講習会の開催に向けて、委員会として検討を行いたい。

文責 岡田あゆみ